



スノーシュー、温泉三昧で冬のツアー満喫 天人峡魅力発信プロジェクト

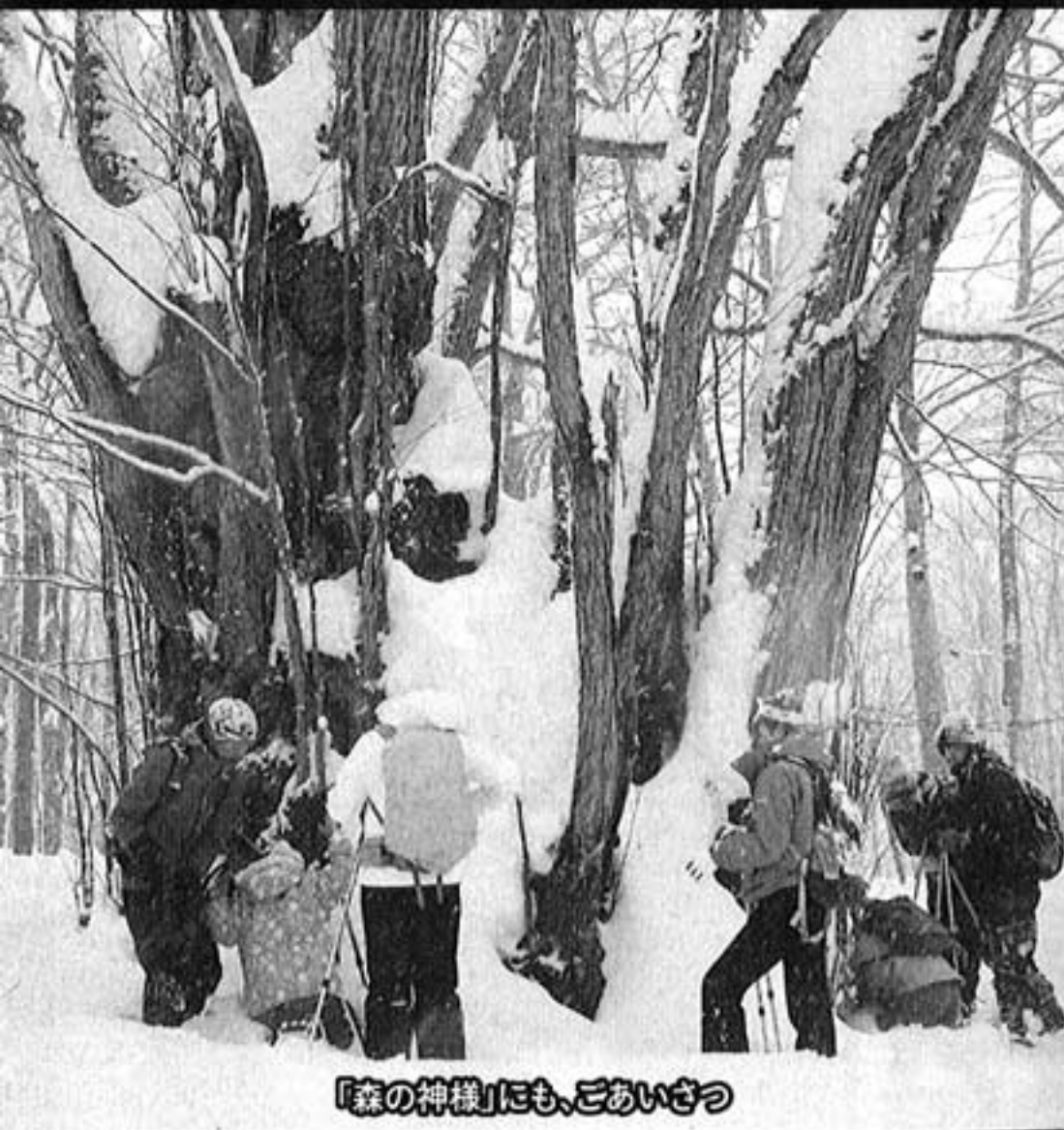
旭岳でもスノーシュー体験

上川総合振興局が推進する「天人峡魅力発信プロジェクト」シリーズ第8弾として12月20、21の両日に実施された「天人峡D E1泊2日アクティブ体験モニターツアー」。同振興局から委託された東川町の体験型観光企画会社「アグリテック」(中田浩康社長)が主催し、「週末アウトドア男」を名乗る男性や「山ガール」を自認する女性など、旭川市近郊に住む10人が参加して行われた。プロジェクトシリーズの最終回となった

今回は、天人峡以外にも、同じ大雪山エリアに位置する「旭岳」を舞台に加え、五感を使って冬の魅力を実感できる宿泊プラン。ガイドの案内のもとに1日目は、旭岳でスノーシュー体験やホテル「ベアモンテ」の天然温泉につかったり、旭岳源水でミネラル豊富な雪融け水を味わい、天人峡の老舗旅館「天人閣」で野趣あふれる温泉と多彩なメニューの夕食に舌鼓を打った。2日目は、天人峡の手前に



スノーシューで「くるみの沢」を散策



「森の神様」にも、ごあいさつ

広がる「くるみの沢」をスノーシューで散策。ガイドを務めた荒井一洋さんが「木の幹のどちら側に雪がついているのか確かめると、風向きを知ることができ、森を歩くヒントにもつながる」とアドバイスしながら、樹齢900年を誇るカツラの木「森の神様」にちなんだエピソードなどをユーモアを交えて紹介した。

この後、天人峡の「しきしま荘」で再び温泉と昼食を楽しんだ。40代の男性は「スノーシューと温泉三昧。身も心もリフレッシュできたが、降り積もった雪の上をかみしめるように歩き進むスノーシューの感触はたまらない」と話していた。